アメリカ大陸

ANDIFES

IDIOMAS Sem Fronteiras

世界人文科学レポート

ブラジルの国境なき言語ネットワーク

デニス ・アブレウ・ エ・リマ
ウォルデノール・B・モラエス・フィリョ

このポルトガル語版は、アンディフェス 言語の国境なきプログラムチームによって制作されました。オリジナルの英語版は、次のリンクで見つけることができます:
https://worldhumanitiesreport.org/region/americas/

世界人文科学レポートは、人的科学センターおよび研究所のコンソーシアム（CHCI）のプロジェクトであり、国際哲学および人文科学評議会（CIPSH）と協力している。世界人文科学レポートへの貢献において表明された意見は著者の責任であり、必ずしも編集者、科学委員会、またはCHCIチームの責任ではない。

世界人文科学レポートは、このプロジェクトの資金提供に対してアンドリュー・W・メロン財団に感謝の意を表す。

© 2022 ウィスコンシン大学システム理事会。

このエッセイはクリエイティブ・コモンズ「表示-非営利-改変禁止」ライセンス3.0のもとにあります。このライセンスにより、あなたはこの作品をコピー、配布、表示することができますが、必ず「世界人文科学レポート」を引用し、適切に著作権（著者名およびタイトルを含む）を記載し、内容を改変したり商業的に利用したりしてはいけません。詳細については、http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/us/を訪問してください。

この出版物はオンラインで利用可能です：https://worldhumanitiesreport.org。

推奨引用：アブレウ　エ　リマ　デニス、ウォルデノール・B・モラエス・フィリョ。ブラジルの国境なき言語ネットワーク。世界人文科学レポート、CHCI、2022年。

この文書の最後には著者に関する詳細情報があります。

ブラジルの国境なき言語ネットワーク

デニス・アブレウ＝イ＝リマ サンカルロス連邦大学
ウォルデノール・B・モラエス・フィリョ ウベランジア連邦大学

人文科学は、国民のアイデンティティの構築や、社会を形成する市民の教育において重要な役割を果たしている。アドリアナ・トーソ・ケンプによれば、「批判的に取り扱われる人文科学は、教育過程において批判的思考と共感という不可欠な美徳を提供する潜在力を持ち、人間の民主的な共存や共通の世界の創造に必要な条件を提供する」と述べている。この共通の世界という概念は、グローバル市民という考えにも広がり、文化的な相互作用がグローバル化した社会で人々を教育する重要な役割を果たし、異文化間能力を育むことにつながる。この能力は、カリキュラムマネジメントと言語教育に依存しており、世界的に私たちをつなぐものに気づく手助けをする。国際化の中心に教育を置く動きが高まっている。

高等教育の脈絡においては、ジェーン・ナイトが定義した「国際化とは、すべての学生と教職員に対する教育と研究の質を向上させ、社会に有意義な貢献をするために、中等後教育の目的、機能、提供方法に国際、異文化、または地球規模の側面を統合する意図的なプロセス」に賛同する。この意図的なプロセスは、多文化および多言語の対話を促進し、それによって寛容の精神を育み、相互理解の機会を増進させることに貢献すると考える。この教育システム間の相互作用の結果として、この統合された世界は、国と国や文化間の協力を育み、異なるアイデンティティを尊重することを可能にするであろう。

国際化や教育運動について議論するとき、私たちは常に人々とアイデアを結びつける連携を可能にする実践と概念に焦点を当てる必要がある。国際化された世界には、言語と文化が、重要性や価値において必ずしも相互に干渉することなく、相互作用できるようにするための工夫が必要となる。ジョン・ハジクによれば、国際化は、すべての教育分野を網羅する広範な運動と見なされるべきであり、すべての人々がその原則に取り組み、知識を結びつける方法を開発することで、本当に民主的であり、さまざまな国民、文化、言語がアクセス可能となるべきだとしている。

高等教育の国際化は、過去25年間、特に北半球およびエラスムス・ムンドゥスのようなプログラムを持つヨーロッパ諸国では一般的な慣行となっているが、南半球の大学では、社会的および歴史的な背景の違いから、国際化に対して別の視点を採用している。その結果、それぞれ独自の戦略を開発し、独自の政策や国家規制に従っている。

南半球に位置するブラジルは、ラテンアメリカにおいて戦略的な位置を占め、ポルトガルによる正式な植民地支配を受けたことで、他の地域と異なる歴史を持っている。広大な国土を持つブラジルは、多様な文化と歴史を有しており、1822年に独立している

が、依然として若い国であり、民主主義の主権を維持するために奮闘している。また、右派と左派のイデオロギーの間で揺れ動いている。
政府の政策は、多くの市民の運命に大きな影響を与え、教育分野を通じてアイデアの普及にも寄与している。連邦政府は、無償の公立学校や大学に対する資金提供を通じて、全国の教育システム全体を規制する強大な権限を持っている。この公共資金は、政府の方針や優先事項に従って知識の生成や研究に影響を与えている。
ブラジルの歴史において、国際化は学術コミュニティ内で重要な役割を果たしており、特に大学院プログラムの発展に貢献している。1971年に設立された連邦政府の主要な資金提供機関であるCAPESは、大学院プログラムの規制と支援を行い、教員の育成を促進している。また、海外での研究者の研究を支援するために、世界各地でのモビリティ・プログラムを通じて強力な全国的な大学院システムを築きあげた。
このような戦略は、CAPESの初期から堅固なものであったが、2011年から2015年にかけて、国際舞台で高等教育の国際化が大きく注目された時期に、ブラジルは国際化における最も重要な取り組みの一つである「サイエンス・ウィズアウト・ボーダーズ（Ciência Sem Fronteiras）」プログラムを立ち上げた。このプログラムは、別の連邦政府機関である科学技術開発全国評議会（CNPq）と提携して開始された。

> 同プログラムの指針によると、サイエンス・ウィズアウト・ボーダーズの主な目的は、国際的な交流とモビリティを通じて、ブラジルにおける科学、技術、イノベーションの統合と拡大を促進することである。この戦略は、(a)　ブラジルの学生、科学者、産業界の人々が国際的な優れた機関において活動する機会を増やすこと、(b)　海外からの若い才能や優れた研究者がブラジルの研究者と共同プロジェクトに参加し、人材育成に貢献するとともに、海外で活動しているブラジルの科学者の帰国を促すこと、そして (c) ブラジルの大学や研究機関の国際化を促進し、国際的なパートナーシップを確立し、外国のパートナーとの連携を可能にするために内部手続きの見直しを促すことを目指している。

サイエンス・ウィズアウト・ボーダーズは、主に学部生を対象に、10万1,000人のブラジル人学生の海外派遣を支援し、教育システム全体における技術とイノベーションの国際化を支援してきた。プログラムは、政府の方針に従い、STEM（科学、技術、工学、数学）分野に関連する職業にのみ焦点を当てており、人文科学や社会科学は除外されていた。多くのブラジル人は、イノベーションと技術がSTEM分野のみに関連すると考えているが、このプログラムから人文科学が除外されたことで、人文科学の不可視性が浮き彫りになり、社会に貢献する人文科学への投資が不足していることが議論の対象となった。
人文科学と社会科学は、イノベーションと技術においても重要な役割を果たしており、その即時的な社会への影響が誤解されているため、体系的に資金提供が不十分な状況にある。また、これらの分野は、サイエンス・ウィズアウト・ボーダーズのような国際化プロセスにおいても、批判的な視点を提供するために必要である。このプログラ

ムは、ブラジルの研究を国際化することを目指しているが、人々のコミュニケーションの基盤として言語を考慮せずに国際化を論じることは不可能である。実際、人文科学がその範囲から除外されたにもかかわらず、サイエンス・ウィズアウト・ボーダーズの実施と運用には人文科学の専門家が必要とされた。
ブラジルの学術界の外国語（特に英語）の習熟度が低いため、ブラジル政府は、サイエンス・ウィズアウト・ボーダーズの奨学金に応募するために学術コミュニティを整備するための外国語教育プログラムを追加で開発する必要に迫られた。このプログラムは「Línguas Sem Fronteiras（リングアス・セン・フロンテイラス）」として知られている。このエッセイの続きでは、Línguas Sem Fronteirasがどのように組織され、その影響について議論し、政府の不十分な投資や支援にもかかわらず、依然として影響を与え続けている点を考察する。

ブラジルの教育コンテキスト

Idiomas Sem Fronteiras（国境なき言語プログラム） がどのように組織されたかを理解するためには、まずブラジルの教育制度の概要を理解することが重要である。ブラジルの公教育は、幼児教育から大学院（博士課程）までの全てのレベルにわたっている。公教育とは、授業料が一切かからず、すべてが税金で賄われている教育を意味する。ブラジルの教育制度を組織する法律では、教育システム（公教育）は次の3つのレベルに分かれている。幼児教育は市町村の責任であり、基礎教育（初等教育から中等教育まで、7歳から17歳の年齢を対象とする）は州の責任である。また、高等教育は連邦政府の責任となっている。しかし、実際には、市町村、州、連邦政府はこれらのレベルで役割を拡大することが可能である。たとえば、基礎教育のカリキュラムは連邦政府によって策定されるが、各州や市町村は国の指針を地域の事情に合わせて適応させる権利を有する。
ブラジルにおける語学教育は、主にブラジルポルトガル語と、最近ではブラジル手話（LIBRAS）の教育に重点が置かれている。いくつかの変更が加えられたにもかかわらず、カリキュラムの大部分はポルトガル語と数学で占めてられている。外国語の授業時間は減少しており、ほとんどの生徒は週にわずか50分の授業しか受けておらず、英語が最も多く教えられている外国語は英語である。カリキュラムにおける外国語の授業時間の少なさ、教職への関心の低さ、低賃金、大人数のクラスなどの要因により、卒業生は外国語でのコミュニケーションが十分にできず、他の文化に対する理解も乏しい状況におかれている。
ブラジルで外国語の教員資格を得るには、該当する言語の文学と言語の学部において、教員免許を取得する必要があります。大学では、これらの教員が基礎教育で授業を行うための準備が行われている。しかし、高等教育が国際化するにつれて、外国語教師には新しい役割が生まれている。それは、公的または私的な学術コミュニティのメンバーが言語の能力を向上させるのを助けることである。ごく一部の人達は私立の語学学校で外国語を学び、さらに少数の人達が目標言語の国でのイマージョンコースを受ける機会を得ている。

数千人の大学生にとって、**Ciência Sem Fronteiras（国境なき科学プログラム）** は、海外での専門的知識の向上と文化的・言語的な知見を深める機会を提供してきた。しかし、その資格を得るためには、応募時に言語能力証明書を提出する必要があり、多くの学生がそれを持っていなかった。この問題に対処するため、連邦政府は連邦大学の学長の助けを借りて、2012年に**Inglês Sem Fronteiras（国境なき英語プログラム）** を開始したのである。
言語学の専門家グループによって設立されたこの新しいプログラムは、3つの無償の取り組みに焦点を当てた。(1) 学術コミュニティ全体に向けた自己学習用のオンラインコース、(2) Ciência Sem Fronteirasおよび他の国際交流プログラムへの応募を希望する者のためのTOEFL ITPの資格試験、(3) 連邦大学で提供される対面授業である。
2014年には、国際的なパートナーからの要請に応え、ブラジルの外国語専門家の支援を受けて、プログラムはさらに6つの言語（英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、外国人向けポルトガル語、スペイン語）を網羅するように拡大し、**Idiomas Sem Fronteiras（国境なき言語プログラム）** に改名された。
前述の3つの取り組みはすべて7つの言語に適用され、そのうちいくつかは国際的なパートナーによって支援を受けることになった。**Idiomas Sem Fronteiras** はすべての取り組みのマネジメントをしていたが、特に対面授業に重点を置いていた。なぜなら、それらは複雑な教師教育策略と関連しており、ブラジルにおける国際化と人文科学の発展にとって最も重要だったからである。
言語学習を国際化の基盤として認めることで、言語学者たちは**Idiomas Sem Fronteiras** を、科学技術革新の発展における人文科学の重要性を認識しない偏った考え方を変える機会と捉えていた。

イディオマス・セン・フロンテイラス プログラム

上述のように、ブラジル連邦政府は、応用言語学者や外国語専門家が提案したプロジェクトに基づき**イディオマス・セン・フロンテイラス（国境なき言語プログラム）** を立ち上げたのだった。このプロジェクトには、次の3つの主要な取り組みを内包している。

1. **無料の外国語能力試験（TOEFL ITP）** 連邦政府は55万件のTOEFL ITP試験を購入し、英語能力を条件とする国の大学に入学する学生を支援した。他のいくつかの外国語試験も国際的なパートナーによって補助された。このように外国語能力試験の無料提供が増加したことで、いくつかの州ではテストセンターが追加で必要となった。州によっては、広大な地域でテストセンターが1つしかない場所もあったためである。各州に公立大学が存在しているため、それらが公式のテストセンターとなり、より多くの学生が外国語能力試験を受けられるようになった。
2. **イディオマス・セン・フロンテイラス用に新たに設立された語学センター** これらのセンターでは、大学コミュニティ全体に向けた無料の語学コースが提供された。7つの外国語のいずれかに高度なスキルを持つ研修中の学部生がセ

ンターの教師となった。英語教師にはブラジル政府から毎月奨学金が支給され、週に20時間、教員研修に専念できるようになっていた。この研修には、教育実習と実務経験が含まれていた。英語以外の外国語教師はブラジルの大学によって補助されていたが、日本語教師は**国際交流基金**によって全面的に補助され、イタリア語教師の一部はイタリア大使館によって補助されていた。フランス政府やドイツ政府も、一部の語学指導者を派遣していた。

3. **オンライン自己学習コースとバーチャル指導**　これらのデジタルな教育方法は、学術コミュニティに対して、外国語学習へのさらなるアクセスを提供することなった。オープン参加の呼びかけの後、141の公立高等教育機関が**イディオマス・セン・フロンテイラス** プログラムの一環として認定された。これらはブラジル全土にわたって分布し、次のような公立機関が含まれていた。59の連邦大学、21の州立大学、1つの市立大学、25の連邦カレッジ、35の州立カレッジである。各機関は、どの言語を教えるかを選択し、それは次の表1に示されている。

表1. 公立高等教育機関で毎年提供される対面型外国語コースの数と、Idiomas Sem Fronteirasプログラムでの受講可能人数

言語	公立高等教育機関	イディオマス・セム・フロンテイラスの年間オープン枠
英語	141	116,000
フランス語	38	4,200
ドイツ語	15	700
イタリア語	16	1,800

日本語	6	900
外国語としてのポルトガル語	62	7,000
スペイン語	42	4,600

出典: Idiomas Sem Fronteiras管理グループによって収集されたデータ。

表1は、英語教育への投資の規模と、ポルトガル語を外国語として提供するコースの拡大を示している。認定申請の前は、外国語としてのポルトガル語コースを提供していた公立高等教育機関はわずか17校であった。連邦政府は、特定の奨学金を教師やコーディネーターに提供することで、直接的に英語教育を促進した。この結果、ブラジルの大学でより多くの英語コースが提供されるようになった。外国語としてのポルトガル語の拡大は、国際化を国外に行く者（OUTモビリティ）とブラジルに来る者（INモビリティ）の両方の視点から見る必要があることを明確にした。
無料の語学能力テストの提供は、学生がScience Without Bordersのようなモビリティプログラムに参加するのを助けただけでなく、大学コミュニティにおける英語の語学能力レベルの診断マッピングを可能にした。このマッピングは、2013年から2018年の間に実施された。図1は、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の能力記述子を使用して結果を示している。A1レベルが最も基礎的で、C2レベルが最も上級である（TOEFL ITPテストはA1およびC2レベルを測定しない）。公立高等教育コミュニティを構成する約200万人の中から限られたサンプルを対象にしたにもかかわらず、このマッピングの結果は、ブラジル国内の英語能力にはまだ多くの改善の余地があることを示している。

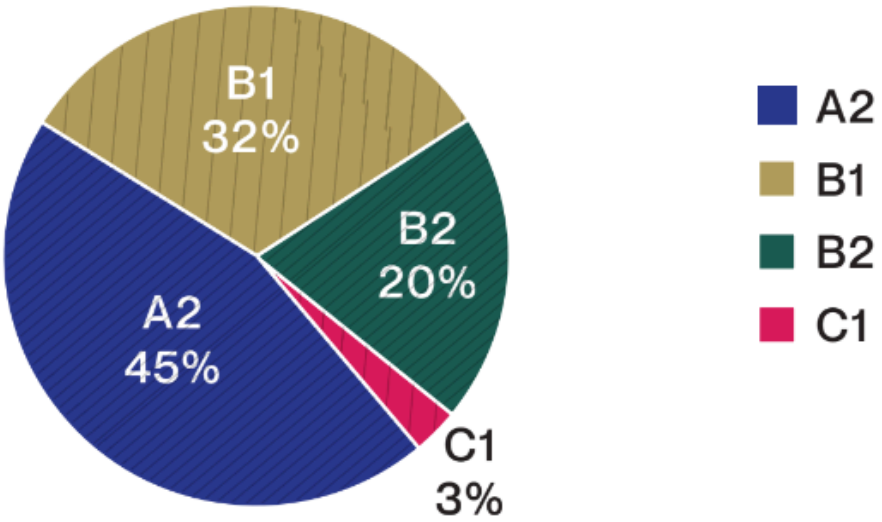

図1. 550,000のTOEFL ITPテストに基づく英語の語学能力レベル。A2レベルが最も基礎的で、C1が最も上級。データはIdiomas Sem Fronteiras運営グループによって収集された。

A1およびC2レベルはTOEFL　ITPテストでは評価されなかったため、これらのデータは、基礎的な能力（A2）を持つ学生がかなりの数（42%）存在することを示している（テストは必須ではなく、英語に一定の能力があると確信している者のみが申し込んだことに要留意）。また、中間レベルの能力（B1およびB2）に属する者が過半数（52%）であり、高度なCレベルの能力に到達するための奨励が必要であることも示している。このテストは診断的評価として機能し、教育省、助成機関、大学が制度的なマッピングを行うのを助け、その結果、語学政策の設計に影響を与えることとなった。テストのスコアは、プログラム内で提供される英語コースを受講したい学術コミュニティのメンバーをクラス分けするためにも使用された。
英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語のオンラインコースが特に提供された。アメリカのCengage社は、My English Online（MEO）という自己学習用の英語コースを開発するために契約した。このコースの5つのレベルに対して約500万のパスワードが提供され、学術コミュニティの誰もが登録してレベルを修了できるようになっていた。
ドイツ語については、ドイツ学術交流サービス（DAAD）との提携により、オンラインコースへのアクセスに使用するための3,843のパスワードが提供された。イタリア語については、イタリア大使館との提携により、イタリアの大学グループ（Icon）によって促進されるイタリア語コースにアクセスするための500のコードが提供された。フランス語については、フランス大使館とアリアンス・フランセーズとの提携により、コース「Français sans Frontières」のために約3,000のバウチャーが提供された。

プログラム「**Idiomas Sem Fronteiras**」の運営

連邦政府の中で、全国的にプログラム「Idiomas Sem Fronteiras」を組織しマネジメントするための運営グループを設立する必要があった。この運営グループは、政府機関所属の会長、言語および技術担当の副会長、各言語ごとに1人の副会長を含む9人のメンバーで構成されていた。すべての運営グループのメンバーは、応用言語学者であり、言語分野における博士号およびポストドクトラルの研究に従事しており、公立大学の教授でもあった。会長と副会長は、教育技術と遠隔教育における専門家であり、大学マネジメントの経験も持っていた。言語担当の副会長たちは、それぞれの言語の専門家と協力して、前述の4つのイニシアティブを組織した。400人以上の人文科学の専門家が7つの言語チームに参加した。運営グループはプログラムのガイドラインを策定した。
オープンコール、国際的なパートナーとの会議、特定のコースの作成から最終的な認証に至るまでのコース提供が含まれている。各ロジスティクス戦略は、地域および機関の違いを考慮しながら共同で策定された。運営グループは、教育省の高等教育局に連携しており、その会長は、出身機関での活動から教育省に移動して、特定の管理職を担当した。これは、教育省の歴史の中で、言語の専門家が国家プログラムを管理し責任を持つことの認可を得た初めてのケースであった。この配置は、応用言語学者が地域レベルでプログラムのイニシアティブを調整し、運営グループを通じて全国的に連携した機関でも反映された。ただし、専門家が必ずしも必要な管理スキルを持っているわけではないことを認識する必要があり、一部の専門家は、日常の管理

業務を処理する方法を学ぶ必要があった。運営グループによって設立された基盤を基に、Idiomas Sem Fronteirasは、認定教育機関の専門家、政府機関、その他のパートナーとの間で、常に生産的な対話を維持し、ボトムアップおよびトップダウンの両方の視点に基づいている。この動的なプロセスを考慮すると、プログラムのいくつかの目標は初めから予測されていたが、他の目標は途中で生じ、最初には完全に予見されていなかった。その中で、遅れて現れた重要な目標の1つは、教師の養成に関連していた。現地コーディネーターの役割を担う応用言語学者の監督の下、教職課程在学中の学部生が学術コミュニティ向けに開かれたコースの教師となった。プログラムが設立された当初、文書では言語教師の養成に重点が置かれていなかった。前述の通り、主な目的は学術コミュニティがモビリティプログラムに申し込むために言語能力を向上させることであった。しかし、Idiomas Sem Fronteirasの実施を進める中で、教師の養成に焦点を当てる必要があることが無視できなくなった。これは、プログラムの行動範囲を拡大する際に、教師教育が含まれるとする連邦規則の第3版で公式化された。地域では、Idiomas Sem Fronteirasは、運営の組織を反映した特定の言語センターに組織された。全体的なコーディネーターが地域のプログラミングを整理し、コーディネーションの焦点となり、各言語のコーディネーターが、その機関に認定された言語における地域でのイニシアティブを組織した。運営の全体的な組織は図2に示されています。

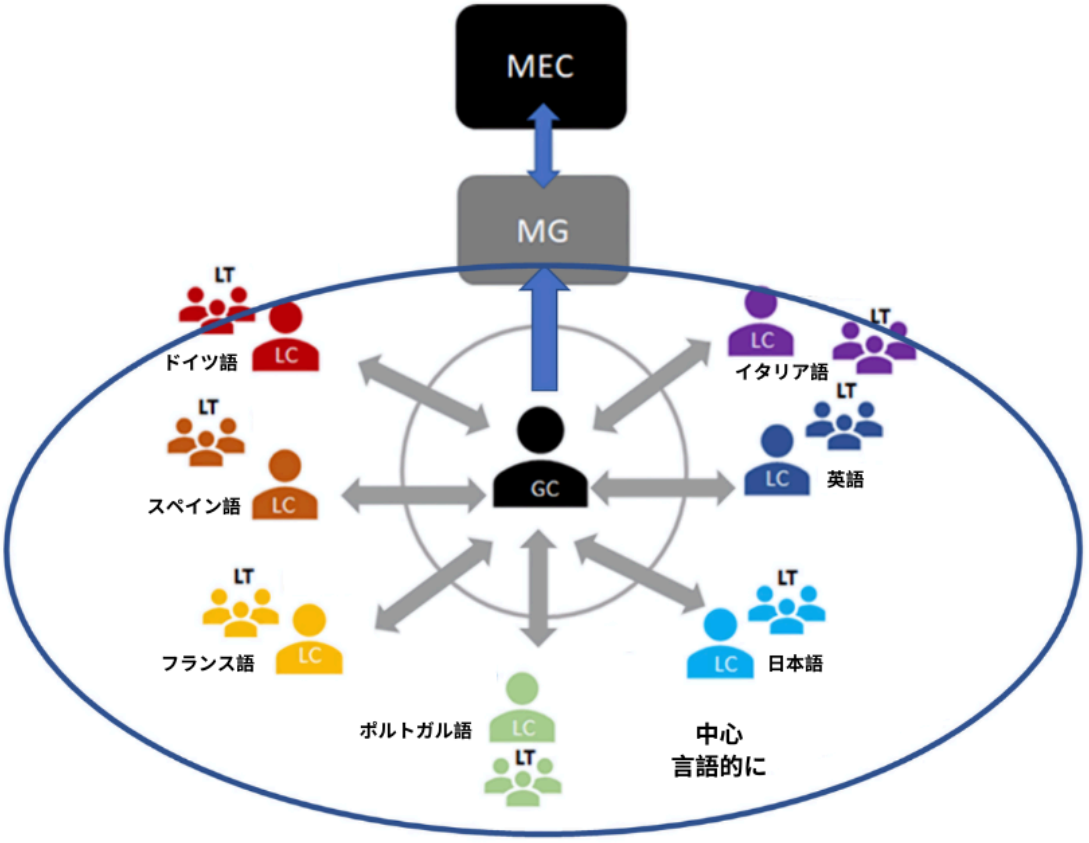

図 **2.** Idiomas sem Fronteirasプログラムのマネジメントシステム。MEC = ブラジル教育省; MG = 運営グループ; GC = 一般コーディネーター; LC = 言語コーディネーター; LT = 言語教育者。 Idiomas sem Fronteiras運営グループによって収集されたデータ。

地方レベルでは、言語コーディネーターと一般コーディネーターが、言語センターの運営に関連する問題に対処した: インフラストラクチャのニーズ、物流および財政的支援、その他の地域特有の問題。 地元の状況における指針を実施し、問題を解決するために、地方の言語コーディネーターは、他のセンターの仲間や、その言語に対する全国レベルの副会長との直接の関係を維持した。 こうして、各言語のニーズを運営グループに伝えることができる別のコミュニケーションネットワークが構築された。 このダイナミクスは図 3 に示されている。

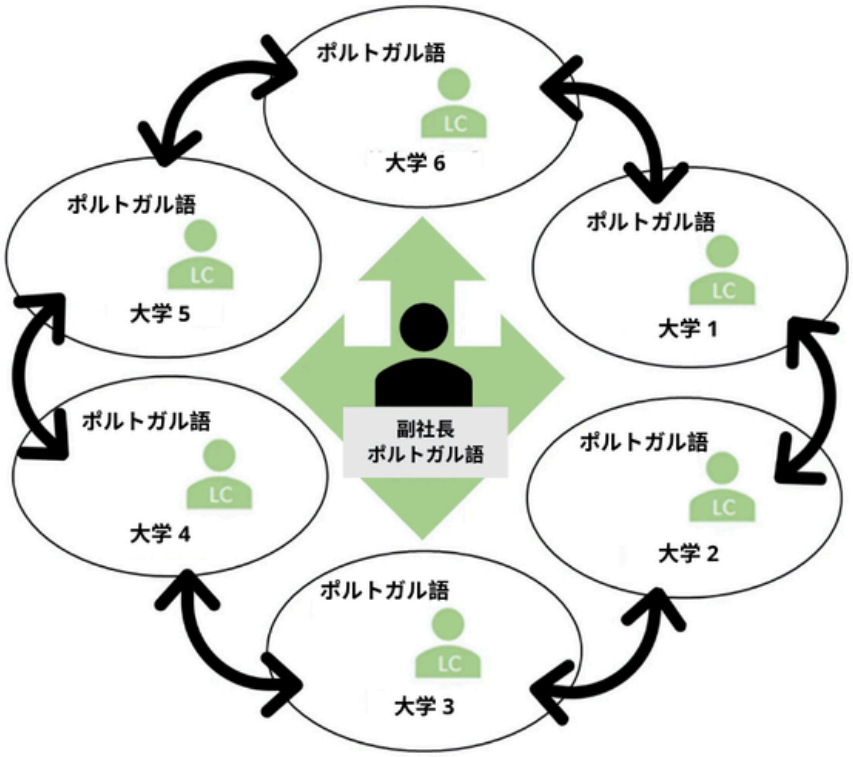

図 **3.** 特定の言語に対する言語コーディネーターと副会長との相互作用。Idiomas sem Fronteiras運営グループによって収集されたデータ。

図 2 および図 3 は、これらの関係の有機的な性質を示唆しているが、対話は必ずしも成功していたわけではない。 人事マネジメントはデリケートなプロセスであり、Idiomas sem Fronteiras は、それ以外では互いに知らなかったさまざまな専門分野の専門家を集めたため、共通の基盤を見つけることが困難であった。 もう一つの難しさは、政府の奨学金が英語の教育のみを資金提供しているときに、すべての言語を平等に扱うことであった。 これは運営グループによって行われた選択ではなく、実施の優先順位とニーズに応じて、すべての言語への奨学金の配分を同じ予算内で含めるようにあら

ゆる努力がなされた。 同じ予算内での奨学金の再配分のために、より具体的な基準を定義する必要性を示すことにある程度の成功を収めたものの、新しい指針は、2018年の全国選挙の前に署名されず、これによりマネジメントが変更され、Idiomas sem Fronteirasプログラムは停止された。 言語コーディネーターは、各自の大学における教師の養成に関連するすべての事項、ならびにコース提供、教材の制作、その他の言語に関する問題を監督した。 養成中の言語教師は、オープンコールによって選ばれた地域の言語と文学のプログラムの学部生であった。 登録手続きの一環として、候補者は満足のいくレベルの能力を示すだけでなく、教育および学生管理のスキルも示す必要があった。プログラムでは、養成中の教師と見なされたこれらの学部生は、最大 2 年間の実地研修プログラムで、Idiomas sem Fronteiras プログラムに所属することとなった。研修は、次の活動に分けられた週 20 時間で構成されていた:
毎週5時間のトレーニングは、言語コーディネーターによって組織され、教授法、理論と実践の問題、教材分析、評価など、またその他の教師の養成に関連するトピックをカバーした。言語の国際化に関連する専門的なトレーニングを提供することを目指した「イディオマス・セン・フロンテイラス」プログラムは、学部課程で行われるものとは異っている。要請中教師たちは、特定の学術目的に基づく外国語のコースを提供する方法を学んだ。すべての教育活動には、仲間、指導者、学生からのフィードバックのプロセスが含まれ、実践で直面した問題について意見を交換した。
12時間の言語コースの指導は、20人の学生のグループを3つ、各4時間で行われた。提供されるコースは、内容、難易度、および必要な熟練度に基づいていた。
3時間のチュートリアルと学習者へのサポート、または他の管理的・教育的活動。これにより、言語コーディネーターのネットワークは、6年間にわたり「イディオマス・セン・フロンテイラス」の1,200人以上の教師に言語教育を提供することがでたのであった。革新的な提案の実施過程において、長期的な成功を達成するために重要な3つの価値観があった:忍耐、柔軟性、そして粘り強さ。「イディオマス・セン・フロンテイラス」では、プログラムが多くのリーダーを巻き込んでいるため、彼らのニーズは明確であった。これには、さまざまな政治的・制度的なフロントでの政府の管理が含まれ、大学の自律性を尊重し、多くの国内外のパートナーによる多くの困難の可能性を考慮している。
これらの価値は、技術的知識、計画、コミュニケーションスキル、異なるものに対するリスペクト、協力して作業したいという願望と組み合わさって、常に聞き、議論する動きの中で、上から下への視点と下から上への視点を統合する。「イディオマス・セン・フロンテイラス」で生まれる豊かなアイデアは、国際的な文脈に統合したい大学生の教育における人文科学の重要性を示しているのである。

コミュニケーション

「アイディオマス・セン・フロンテイラス」プログラムは、その開始以来、複雑なイニシアチブとコミュニケーションの構造を含んでいる。プログラムの全国的な範囲と多様な制度的現実、複雑なニーズのために、運営グループは活動の可視性を高め、情報の流れを可能にするための技術インフラを必要とした。その結果、教育省の情報技術チー

ムは、プログラムのすべてのイニシアチブに対してオンライン管理システムを開発した：テストとコースへの申し込み、対面コースの提供、教室の運営、活動のモニタリング、アイディオマス・セン・フロンテイラスに関与する7つの言語の修了証明書の発行。このシステム内では、異なるレベルの管理者が28種類の異なるレポートを利用でき、これが地域および国家の管理者が地域のイニシアチブを計画し、説明責任を果たすのに大いに役立った。管理者、運営グループ、および言語センターのチーム間のコミュニケーションのために、Moodleの仮想環境内で部屋が整理され、ベストプラクティスの交換のためにファイルが共有された。WhatsAppは、チームが最も多く使用したコミュニケーションツールの1つであった。言語と管理プロファイルによって編成されたWhatsAppのグループは、コーディネーターが日常業務で直面している問題に対する迅速な解決策を促進した。
COVID-19のパンデミックが始まる前から、「アイディオマス・セン・フロンテイラス」はオンラインリソースを通じて積極的に接続されていた。異なる場所で、アイディオマス・セン・フロンテイラスのコーディネーターと教師との間のバーチャルな調整や指導など、さまざまなイニシアチブが行われていた。遠隔でシンクロナスモードで提供される言語コースのためのパイロットグループが組織され、アイディオマス・セン・フロンテイラスの教師が1つの場所にいて、学生が別の場所に集まっていた。これらのイニシアチブの主な目的は、いくつかのコミュニティでの言語専門家の不足という問題を解決することであった。これらの経験は、2020年に始まったCOVID-19のパンデミックに向けて重要な学習を提供することになったのである。

プログラム「国境なき言語」の影響

ブラジルの教育省の監督の下、2012年から2018年までの6年間、「国境なき言語」プログラムは、特に外国語の教育・学習、教員養成、応用言語学の研究、および国際化の過程における人文科学の専門家の評価と包摂において、国の高等教育に重要な影響を与えた。「国境なき言語」により、外国語の教育・学習分野では、コースや試験へのアクセスが拡大し、全国の公立高等教育機関に対して政府によって補助されたため、地域全体が参加できるようになった。プログラムに認定されるための公募の性格により、認定から1年以内に、各機関はその言語政策を提示する必要があった。これにより、これらの機関の言語専門家や応用言語学者は、各コミュニティにとって言語的に重要な内容を議論するための委員会を組織することができ、地域や地方の歴史と状況を考慮することができた。プロセスの終了時に、運営グループは、さまざまなチームによって生成された90件の機関の言語政策文書を受け取った。これは国にとって前例のない拡大であった。これらの言語政策は、高等教育機関での国際化のための取り組みを計画する際に直接的な影響を与え、これにより、政府が推進する他の国際化プログラムへの参加が促されることになった。
CAPES（ブラジルの国境なしのサイエンスプログラムの主要な助成機関）は、研究と大学院教育に焦点を当てた、参加者数が少ない新たなプログラムを立ち上げた。このプログラム、**CAPES-PrInt**は、扱う分野に人文科学を含めている。新プログラムでは、応募者に外国語の高い能力が求められている。

教員養成の分野では、「国境なき言語」プログラムが、養成中教員の実習プログラムを実施し、教員養成を受ける学生が学部課程中に専門化できるようにした。これにより、在学中に言語専門家の監督のもとで職業を体験できるようになった。「国境なき言語」に参加した多くの養成教員は、プログラムを通じて得た経験のおかげで専門的な成功を収めていると確信している。具体的には、これまで技術や生物医学の分野に限られていた議論、すなわち技術的な充実の機会、職業的な視野の拡大、国際化についての協力的な作業や批判的な議論等の経験が含まれている。
応用言語学の分野では、「国境なき言語」に関連する研究から、多くの学位論文、修士論文、博士論文が制作され、公開され、ブラジル国内外の学術学会で発表されている。400篇以上の学術研究が、プログラムやブラジルの大学の国際化における言語の役割に関連して発表されている。この影響は、今やブラジルでの国際化イベントにも表れており、外国語や言語専門家を含むイニシアチブに特化したセッションが存在するようになった。これは、ブラジルの学術界における「国境なき言語」の強さを明確に示していることになる。プログラムはまた、公共政策への影響により国際的にも認知を受けており、「国境なき言語」の代表が、2016年にアメリカ合衆国大使館から与えられた**Distinguished Hubert H. Humphrey Leadership Award**と、2017年にカナダ大使館から与えられた**Noble Partnership Award**の2つの賞を受賞している。

国境なき言語と**Andifes**ネットワーク

2018年、教育大臣10名、7名の高等教育秘書官の下で6年間にわたり、異なる3つの政府管理の下で運営された「国境なき言語」プログラムは、休止された。運営グループが組織した専門家ネットワークは、非政府組織であるブラジルの公立高等教育機関の責任者協会（Andifes）への移行を調整した。Andifesは、大学が連邦政府、ブラジル国会、助成機関、そして一般社会に対しての要求やニーズ、政策に取り組む団体である。「国境なき言語」のイニシアチブをAndifesに移行することは、連邦公立高等教育機関の国際化プロセスをさらに強化するための戦略であった。
2019年以降、「国境なき言語」はAndifesを通じて運営され、言語間の不平等やリーダーシップの頻繁な中断といった課題に対処するためにイニシアチブを再編成した。今では、より多くの経験と視野を持つネットワークが、政治的変化を気にせず、言語教育の貢献をより良く共有できるようになったのである。それは、Andifesは、各機関の学長によって運営されており、政府からの直接的な干渉がないためである。Andifesでの新たな運営体制は、いくつかの重要な変更を実施した。その1つは、ブラジル国内外の公立または私立の高等教育機関に所属する外国語専門家が「国境なき言語」に参加できるようになったことである。同様に、外国語教育の学位課程を提供していない機関でも認定を受けることができるようになったが、これはAndifesに結びつく連邦機関のみが認定を受けることができる。チームは「プログラム」ではなく「ネットワーク」と呼ばれ、国全体で共同でコースを提供し、公立高等教育機関の異なる機関からの教員が認定を受けた大学のコミュニティ全体に外国語を教えている。
これらの変更により、「国境のない」という概念の実践を行っている。つまり、機関の境界、キャンパスの境界、都市、州、国の境界がないということである。ネットワークはブ

ラジルの外部にいる専門家も参加できるためである。学部生教育に加えて、「国境なき言語」ネットワークは、7つの言語のためのオンラインで全国的に認定された連携型専門コースを提供するという革新も行っている。このアイデアは、国公立高等教育機関の国際化のコンテクストで活動する外国語専門家の継続学習に貢献し、さらにブラジルにおいて外国人や難民を受け入れるための外国語専門家を育成し、コミュニティ全体がより寛容で、支え合う、人間的なグローバル市民性を育むことを目的としている。

認定を受けた専門家の大半は、科学の発展と、ブラジルの機関で提供される無償かつ質の高い教育の改善に取り組む公務員である。この点で、運営グループは、ネットワークに参加する専門家をさらに惹きつけるために、イニシアチブの制度的認知を求めている。「国境なき言語」ネットワークは、今日のように必要な批判的思考にアクセスを提供する人文科学の専門家を認識することにも焦点を当てており、さまざまな言語での知識へのアクセスを拡大している。

したがって、「国境なき言語」は、人文科学教育の重要性を強化し、より理解のある寛容な社会を築くために貢献する運動となってるのである。哲学者のマルタ・ナスバウムは、人類に影響を及ぼす問題は私たち全員に関係していると指摘し、前例のない形で協力し合うことが重要であると述べている。これには、批判的教育の一環として、1つ以上の外国語を学ぶ重要性が含まれている。これは、ツール的な限界を超え、よりグローバルな問題に統合された教育を促進し、世界の広範な読み取りと解釈に貢献するのである。

したがって、Andifesの「国境なき言語」ネットワークは、多言語教育環境の発展において重要な役割を果たしている。その主な貢献の1つは、ブラジルの公立高等教育機関の国際化の重要な役割をサポートすることである。これは、さまざまな現実における学者の全体的な形成において、人文科学が果たす役割を示している。

デニーズ・アブレウ＝エ＝リマは、国境なき言語」プログラムの元会長であり、現在Andifesの「国境なき言語」ネットワークの全国コーディネーター。ブラジルのサン・カルロス連邦大学教授。

ワルデノール・B・モラエス・フィリオは、「国境なき言語」プログラムの元副会長であり、現在Andifesの「国境なき言語」ネットワークの言語と技術の全国コーディネーター。ブラジルのウベルランディア連邦大学の言語学の教授。